

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.57 (2020.12.28)

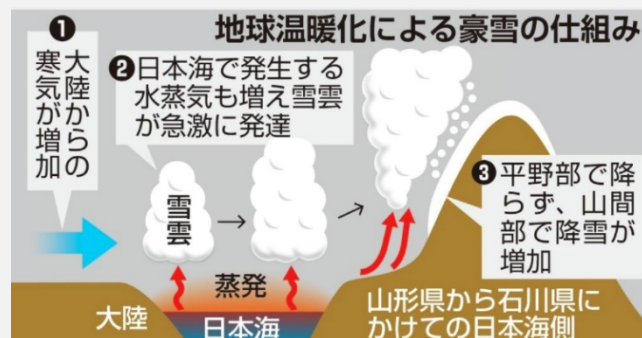
令和2年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
全てのステークホルダーの満足度向上
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

本格的な降雪が12月14日月曜日から始まりました。昨年の記録的な小雪から一転、道路除排雪が全く追いつかない非常事態となりました。昨年の経験が油断を招いた面もあると言わざるを得ませんが、これほどまでに12月から急に降り続く経験は年配の方でも無いようです。言うまでもなく道路インフラは地域社会の営みと暮らしを支える根幹であり、大雪で一台の車がスタックするだけで通勤通学物流などに大きな支障を来し経済活動に大きな影響を与えます。

一方で業界の最優先経営課題と言える「人材確保」は年々状況が厳しくなっており、特に除雪オペレーターなど実際に建設機械に乗る現業社員の採用はさらに厳しい状況が続いております。少子化によって今後も状況が好転することは無く、中長期的には深刻さが増大していくものと思います。私は高校生の土木離れには工業高校の土木科の先生が極端に減っているという現状が影響していると考えています。つまり生徒に対して土木の知識だけではなく土木の魅力を熱く語ってくれる先生がいなくなっていることが、土木を志す高校生が減っている要因ではないかと思うのです。この問題に関しては県に対し粘り強く要望して参りたいと考えております。また皆さんの知人友人に当社で働きたいという方がいらっしゃれば、引き続き是非紹介をお願いします。

昨年12月17日付けの産経新聞の「温暖化で日本海側の豪雪強まる東北大など予測」という記事には以下のようにありました。地球温暖化がそのまま進むと、今世紀末に東北から北陸地方の日本海側の山間部で豪雪が強まることが、東北大などの研究で分かった。温暖化で降雪量が増える仕組みを初めて解明し、警鐘を鳴らした。16日付の米科学誌電子版に発表した。研究チームは、日本周辺の気候モデルをもとに、国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）のデータなどを組み合わせて降雪量を予測した。その結果、世界の平均気温が今世紀末に4度上昇すると、山形県から石川県にかけての日本海側の山間部で、1年間で最も雪が多い日の降雪量が現在よりも増えることが分かった。温暖化が進むと大陸からの寒気が一時的に増加するほか、日本海で発生する水蒸気も増えて雪雲が急速に発達。日本上空に到達した雪雲が、平野部で雪を降らせないまま山脈にぶつかることで、山間部で豪雪が強まるとみている。一方、日本海側の平野部では降雪量に目立った変化がなく、太平洋側ではむしろ著しく減少するという。東北大学の佐々井崇博助教（気象学）は「豪雪は山間部での暮らしに大きく影響する。対策が必要になるのでは」と話す。



地球温暖化で山間部の雪はこれから多くなる!! 私たちの住居や暮らし方について真剣に議論する必要があると思われます。

湯沢雄勝☆みらいデザイン U-17



管内の高校2年生の皆さんに地元に残ってほしいと訴えました。今年はコロナ対策で総務部の女性にオール動画で説明してもらいました。ご苦労様でした。

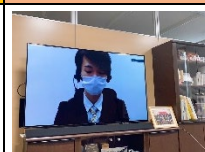
湯沢青年会議所卒業式



12/17(一)社)湯沢青年会議所2020年度卒業式が有りました。年間最優秀賞に高瀬電設様の上野祐太さんが選ばれました。東京出身で湯沢に来てまだ3年に満たないのですが本当に頑張っています。



経済産業省 ZOOM 取材



中小企業基盤整備機構の委託で中小企業のIT導入事例紹介のコンテンツ制作会社から取材を受けました。当社が導入した人員配置システム「ここからアプリ」というサイトで来年紹介されます。

